

当院における健診受診者の体組成成分測定の見直し

◎柴田 綾¹⁾、石合 めぐみ¹⁾、岡田 瞳¹⁾、徳竹 由美¹⁾
 地方独立行政法人 長野県立病院機構 長野県立信州医療センター¹⁾

【はじめに】高齢者の筋肉量低下に伴うサルコペニアやBMIは正常で脂肪量の増加する隠れ肥満が注目されている。当院では2021年10月より健診で体組成成分測定を開始した。

【目的】健診受診者の体組成成分測定結果を解析する。【対象・方法】2021年10月から2023年10月に健診で体組成成分測定を行ったのべ389件（男215件女174件 26歳～92歳）測定装置：高性能体成分分析装置 InBody770（インボディ・ジャパン社）検討項目は体格指数（BMI）・体脂肪率・四肢骨格筋指数（以下SMI）SMI：男性<7.0kg/m²女性<5.7kg/m²体脂肪率：男性>30%女性>35%をカットオフ値とし、標準・サルコペニア・肥満・サルコペニア肥満に分類する。【結果】表1・表2に示す。【まとめ】男性は70代、女性は40代から筋肉量が減少しサルコペニアが増える傾向にあった。男性は年齢増加とともにBMI、筋肉量は低下、体脂肪率は横ばい、女性はBMI、体脂肪率は増加し、筋肉量は低下の傾向にあった。全受診者のうち筋肉量が少なく体脂肪量が多いサルコペニア肥満は12人（男4人女8人）でこのうちBMIが25を超えたのは2人。

【結語】サルコペニア肥満はサルコペニアより予後が悪化するとされている。筋肉量と脂肪量を同時に測定することで隠れ肥満やサルコペニア肥満を拾い上げることができた。本検査結果が保健指導の有用なツールとなるか今後も継続的な解析を続けていきたい。

表1 年齢別測定値

年代	BMI		体脂肪率 (%)		SMI (kg/m ²)	
	男	女	男	女	男	女
30代	26.5±5.9	21.9±3.0	24.0±7.4	29.9±7.4	8.4±1.1	6.1±0.3
40代	23.0±3.0	21.6±3.8	20.7±6.2	27.7±7.0	7.7±0.6	6.2±0.8
50代	23.2±3.4	21.1±2.8	21.3±6.8	27.4±6.9	7.7±0.6	6.0±0.6
60代	24.1±3.1	22.7±3.6	23.7±6.4	30.6±7.1	7.6±0.5	6.1±0.7
70代	22.8±3.0	22.1±3.0	24.2±5.9	31.1±6.5	7.1±0.8	5.7±0.5
80代	23.1±3.2	23.9±2.7	25.5±5.5	35.9±7.1	7.0±0.9	5.5±0.6

表2 体型の分類

年代	標準体型		サルコペニア		肥満		サルコペニア肥満	
	男	女	男	女	男	女	男	女
30代	9	3			3	2		
40代	24	21	2	8	3	6		1
50代	40	18	2	12	5	5		2
60代	40	17	2	8	6	15		2
70代	33	17	22	16	7	12	4	2
80代	4		7	3	2	4		1

連絡先：長野県立信州医療センター臨床検査科
 026-245-1650（内線2142）